

## 6. ま と め

好天ベースの原因として13日に500mb面でカムチャツカ半島西部に発生したブロッキング高気圧に伴い、14日には満州北部で低気圧がカット・オフされ、ゆっくり南東進し、九州から中国大陸にかけて北西の指向流が続いたことがあげられる。例数が少ないので問題はあると思うがブロッキング高気圧の発生した時の flow pattern と  $\bar{u}_{70} - \bar{u}_{50}$ ,  $\bar{u}_{50} - \bar{u}_{30}$  の周期変動との間により相関があり、一般に  $\bar{u}_{70} - \bar{u}_{50}$  が正、 $\bar{u}_{50} - \bar{u}_{30}$  が負でそれぞれ大きな値を示し寒気(負の  $\bar{w}$ )の南下に伴い、偏西風の強風軸が南下するとともに強まる傾向にあり、同時に極から南に

のびる深い気圧の谷が日本付近をとっており、しかも谷の走向が北西—南東の場合、ブロッキング高気圧がカムチャツカ方面で発生していることは興味がある。なお今後とも検討を加えて行きたいと思っている。不十分な点については諸先学の御指導を仰ぎたい。

## 参 考 文 献

- 荒川昭夫：最近の大気大循環論，気象研究ノート，第9巻第4号  
 村上多喜雄，渡辺正雄：ブロッキング現象について，グロースベッター，第4巻第2号

## 第15期第3回理事会議事録

日 時 昭和44年3月27日 15.00～18.00

場 所 気象庁予報部会議室

出席者 山本理事長，大田，毛利，竹内，有住，根本，朝倉，岸保，小平，松本，北川，大井，各常任理事 須田，中島，各理事 関口監事

報 告 庶務：3月19日，日本学術会議会長江上不二夫氏から，第52回総会で採択した「大学問題についての声明」の通知があった。

学会連合地物研連：3月20日地物研連気象分科会が開かれ次のことが議題となった。

1. 1973年の IAMAP 総会に関して各国のナショナルコミッチイ開催地についての照会があった。1973年に日本開催する件について好意的な回答をすることにした。

2. IUGG の3分割案が提案されているが，気象分科会としては Atmospheric Sciences と固い地球物理学の2分割案を提案したい。

3. 陸水分科会の新委員は磯野謙治氏を，また1970年 EAPSO 総会を日本で開くが，その際のシンポジウム (Air Sea Interaction) の委員には小倉義光氏を推薦した。

4. 科研費配分委員には磯野氏 (気象)，小倉氏 (超高層，臨時) に決った。なお GARP は特定計画研究とし，審査員には山本義一 (長)，小倉義光，山元竜三郎の各氏が決った。

ノート：No. 100 記念号の投稿承諾が121名からきている。

国際交流：中国関係の文献のリストをノート101号に掲載する予定。

外国委員会：(毛利理事，北岡評議員) 数値予報シン

ポジウムプロシーデングスはその後 WMO から連絡があって，\$ 2,500 で900部を印刷し，そのうち150部を WMO に送付し，残りの750部を学会で配布することになった。配布価格については別途検討する。

## 議 題

### 議決事項

#### 1. 春季大会の準備について

(1) 名誉会員推薦について

正野，島山，和達，各会員を推薦する。

(2) 理事長あいさつ

学会運営，気象学発展についての抱負所見，気象業務及び研究の整備拡充に関する要望を主として行なう。

(3) 44年度予算案

天気編集理事から天気編集費増額の提案があり，その必要性が承認されたのに関連し，また須田理事から外国文献集の編集費について要望があった。

#### 2. 45年度当番支部について

理事長よりの照会に対し支部長より了承の旨回答があったので関西支部とし，秋季大会を受持つて貰うこととなった。

3. シェルハグ教授招待に関する決算報告書が承認された。

承認事項 Pruppacher, Hans. R 外25名の入会を承認する。

### 懇談事項

外国文献集の編集委員会について

編集委員会を設けることにし須田理事が委員候補者を決め次の常任理事会に提案する。なお44年度予算に編集委員会会議費10,000円計上する。